

「終末期の諸症状からの解放

Symptom Relief in Terminal Illness

WHO 編集

埼玉医科大学客員教授 武田 文和 訳

国立がんセンター中央病院院長

垣 添 忠 生

がんやエイズといった病気の終末期にあって、様々な症状で苦しんでいる人が、毎年、全世界で数千万人いる。この終末期の諸症状からの解放が達成できれば、患者さん自身はもちろん、家族も、医療者にとっても、その意義は計りしれない。

世界保健機関(WHO)が、「がんの痛みからの解放」を出版してから、WHOの三段階除痛ラダーという考え方は世界に広まり、この本は20以上の言語に翻訳され、50万部以上が購読されてきた。この本が出版されるとすぐ、その姉妹書に相当する本書「終末期の諸症状からの解放」が強く求められてきた。1989年、WHOの専門委員会が発足し、訳者の武田先生もその一員であった。この委員会は、日本を含む18か国から約50名の専門家に意見書の提出

を求め、WHO方式のがん疼痛の臨床における緩和ケアの実践を勧告する報告書をまとめた。WHOは更に、イギリス、イタリア、カナダの3名の委員に草案の更なる編集を委ねた。これら専門家の協力と、多年にわたる国際協議の積み重ねの結果として、1998年、この指針が公表された。

本書は終末期の諸症状をアルファベット順に解説している。すなわち、食欲不振と悪液質、不安、全身衰弱、便秘、咳、せん妄と痴呆、抑うつ、呼吸困難感、しゃっくり、腸閉塞、口腔内ケア、嘔気と嘔吐、皮膚のトラブル、排尿トラブルの14項目である。しかも使われる薬剤は一般名に加えて商品名の1つがカッコで付されている。投与量も60kg体重の患者さんの場合に換算されており、

親切で便利だ。この項目を見ただけで、医療者が日々に接する終末期の患者さんの苦痛が網羅されており、しかも記述は簡潔を旨としていて明快である。まさに臨床の現場で求められてきた書物だと思う。大きさは掌におさまる程度で軽く、白衣のポケットにも楽に入れられるように工夫されている。

こうした指針が真に力を発揮するためには、医療者が、患者さんの訴えに耳を傾けること、しかもその言を信ずることがすべての出発点である。われわれがこの態度を持ち、本書を携行すれば、終末期の諸症状で苦しむ患者さんへの対応も自ずと異なったものになるだろう。

● B6変型 頁134 2000
定価(本体1,800円+税) 円400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)